

自然災害が起きた時の対応は

川上尚也 議員
三谷斗真 議員
高梁小



高梁市では災害に備えての物資はここに保管して、どれくらいの量を確保しているのでしょうか。避難場所は本当に安全なところにあるのか教えてください。高梁小学校が避難場所としても谷や川に近く、ここに避難するのは危険だと思います。

災害が起きたときに素早く避難できるように、地区の避難場所を示した地図を町内に1カ所は掲示し、危険な所や安全な避難経路を示しておくことと思います。避難訓練をしておくことや、各家庭にハザードマップの配布や防災グッズ、非常食の準備を高梁市が中心となって整えておくことも大切だと思います。

答弁 近藤隆則 市長

災害に備えて、ご飯やクラッカー、飲料水、毛布、簡易トイレ、発電機を準備して、市役所と各地域局、各市民センターに用意をしています。備蓄量は、岡山県が目標を定めているので、それに従って食料は6500食、簡易トイレは1100人分を用意しています。

災害が起きた時には、市が避難場所を指定していますが、避難場所が全部安全とは言えないかと思っています。災害の時、周囲の状況がどうなるか分からないからです。小学校でも土石流が起きた時を想定して避難訓練をしているということです。災害が起こる前に、皆さんが小学校で行うように、どこに逃げるか自分たちで決めておくのが非常に大切だと思います。

市で防災マップを配っていますが、広い範囲なので、町内で掲示ができるような小さなマップが必要だと思います。皆さんで話し合っただけのものいいと思います。災害が起こった時に、どうするのかということをお知らせし、自分自身で考えておくことが一番大事なことです。このことは、東日本大震災の教訓でも言われていることです。

よりよい高梁市になるために

野見青海 議員
佐伯英大 議員
巨瀬小



高梁市の年齢別の人口分布を見ると、20歳前後を除き、子どもの人口が全国平均よりもかなり低く、高齢者の割合はかなり高いことが分かります。人口も減り続けています。

高梁市がより良い町になるためには、市民にとって便利で使いやすい施設をつくる必要があるかと思いますが、現在、備中高梁駅の工事が行われていて、新しくなる駅には、新しいお店が入ったり、障がいのある方も利用しやすくなったりすると聞いています。また、このような施設が増えるということはそれだけ市内に働くところが増え、人口の増加にもつながるのではないかと思います。

答弁 近藤隆則 市長

深刻な難しい問題だと思います。このままでい続けたら、2040年には、高梁市は消滅するといわれました。そうならないために今さまざまな対策をとっています。

住む人にとって、便利で使いやすい気持ちがいい施設は、これからも求められると思います。何でもつくればいいのではなく、目的を持ってつくっていくことが必要です。JR備中高梁駅は2階に上がり、エレベーターが整備され、ホームもかさ上げして、誰でも使いやすい駅になるように計画されています。使う人の立場で考えると、気持ちのいい施設ができると思います。駅だけでなく、その横に図書館の整備や駅の待合など、にぎわいの施設をつくらうと考えています。同じように誰もが安心して使える、気持ちいい施設にしたいと思っています。

誰もが使いやすい施設をつくることを考えながら、そこに来た人いろいろなものを提供することで、雇用が生まれると考えられます。企業を誘致して働く場所を確保することも必要であり、雇用を生むためのさまざまな対策を一生懸命考えています。

児童数減少と高齢化への対応

佐田健太 議員
東原賢昇 議員
玉川小



今年度、玉川幼稚園への入園者はいませんでした。このような状態が続けば、玉川町から学校がなくなってしまうので心配です。若者が町内に残ろうと思える魅力があるまちづくりを考えていただけると、児童数の減少に歯止めがかかるのではないかと思います。

高齢化社会に向けていろいろなサービスを充実していただきたいです。お年寄りが安心して暮らせるような介護施設が玉川町にもあればいいと思います。

高梁市は、児童数や若者の人口減少の歯止め対策、高齢者が安心して暮らせるようなサービスを何か考えていますか。

答弁 近藤隆則 市長

玉川町玉地区に分譲宅地を9区画、整備しました。新しい人に住んでもらえるということで、小学生の数も増えると期待しています。人口を少しでも減らさないようにするために、今後分譲宅地を整備してできるだけ安く提供していきたいと思っています。家を建てる時に最高125万円まで助成する制度や、土地を買う時の助成金もあります。また、18歳までの医療費を無料にしています。子どもがいる家庭や、結婚して住みたいという人への支援策も用意しています。そういう制度を今後もしっかりPRしていきたいと思っています。

高齢で一人暮らしの人には、栄養バランスを考えた弁当を配達する、給食サービスを行っています。持っていくだけでなく、会話をしながら体調の確認もしてもらっています。病院や買い物、家事を手伝うサービスもあります。長生きして良かったと言ってもらえるサービスを行っています。

これからも高齢者から子どもたちまで住んで良かったと言える町にするために、どういった対策が必要か考えていきます。

図書館の分館の設置について

赤埴悠美 議員
長原 櫻 議員
宇治小

月一回、移動図書館が来ていますが、授業と授業の合間なので、急いで借りなくてはなりません。宇治市民センターの図書コーナーは、小さい子どもと大人向けの本が中心で、私たちが読める本が10冊ほどしかありません。ロビーに置いてあるので、選んだり読んだりすることが難しくなっています。新しい図書館が建設されますが、宇治町に住んでいる私たちは、遠いので自分で気軽に利用できません。

宇治市民センターの図書コーナーを拡大・充実させて、図書館の分館をつくり、読書をしたり地域の人のふれあいの場にしたります。これはできないでしょう。読書好きの宇治小学校の児童がしっかりと本が読めるように、図書館の分館の設置を提案します。



答弁する平田守教育長

本を読むということは大変素晴らしいことです。これからもしっかりと読んでほしいと思います。

市内には、生涯学習の拠点として公民館を設置しています。宇治町は宇治市民センターが公民館です。公民館には、規模の違いはありますが、それぞれ図書コーナーを設けています。

利用する人の年代に応じて、希望の本を全て備えることは、スペースの問題もあり、なかなかできない状況です。それを補うために、移動図書館車を運行して、図書館に行くことができな人などに、公平に読んでもらえるようにしています。運行回数や利用時間も限られていますが、利用者の皆さんの希望に合うように時間やルートを見直していますので、頂いたご意見を参考に検討したいと思います。

新しい図書館でも市民の皆さんが利用しやすいように、開館の日や時間を検討していきたいと思っています。新しい図書館が完成したら、ぜひ利用してください。